

[第 31 回定時株主総会 主な質疑応答 (要旨)]

- Q1. フィールズのビジネスモデルについて、改めて教えて欲しい。  
パチンコ・パチスロメーカーなのか、コンテンツやキャラクターを売る会社なのか。
- A1. 当社はパチンコ・パチスロ業界における独立系の流通商社である。1988年に当社の前身となる東洋商事を設立して以降、30年に渡り、パチンコホールの経営や集客に資する事業に加えて、遊技機のプロデュースにも携わるようになっていった。とりわけ、技術力、開発力、製造力に秀でた大手メーカーとの事業提携により、当社が各メーカーのセカンドブランドの販売を任せていただくことにより、シェア拡大を目指してきた。また、ウルトラマンをはじめとする IP (知的財産) のライセンスアウト等、キャラクターやコンテンツを活用した遊技機作りにも携わっている。
- Q2. 「エヴァンゲリオン」シリーズのパチスロが好きで、よく遊技している。今後も新台を販売する予定はあるのか。
- A2. 具体的な時期は差し控えさせていただくが、今後も新たなタイトルを販売していく予定である。
- Q3. 外国人観光客のパチンコ・パチスロ参加人口を増やす取り組みについて、貴社の考えを知りたい。
- A3. まずはパチンコ・パチスロがどのような遊技なのかを知ってもらうため、各国のパートナーと組んでインターネット等を通じた情報発信をしていく等、業界一丸となった取り組みが必要だと考える。
- Q4. カジノ・IR に関連する新規事業等は考えているか？
- A4. 世界中の人が海外旅行を楽しむ、その夢や楽しみの一つとして存在するカジノという場所には関心を抱いており、中長期的な展望ではあるが、当社として世の中の人に楽しんでもらえる余暇を提供できたらと思っている。
- Q5. 直近の株価下落と、今後の株価上昇、株主還元に対する貴社の考えを伺いたい。
- A5. 3期連続の赤字により、機関投資家が当社株を手放していることが、直近の株価下落の主因であると認識している。当社は、2019年3月期の黒字化に向けて、事業再編ならびに経営コストの最適化に向けた諸施策等を推進した。その結果、2億円の営業利益を計上する見通しだったが、2019年5月15日付「2019年3月期連結業績予想と実績との差異および個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ」に記載の理由により、赤字決算に転じることとなった。今後は、引き続き経営コストの最適化を図るとともに、良い版權、良い遊技機を一台でも多く売ること、業績面で皆さまのご期待に応える所存である。

Q6. 連結貸借対照表の「原材料及び貯蔵品」、「仕掛品」が増加している理由を詳しく知りたい。

A6. 増加の要因は、株式会社七匠の連結子会社化に伴うものである。「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」はいずれも、2022年3月期までに七匠が販売する予定の遊技機の開発・製造に関するもので、前年比でおよそ20億円増加している。

Q7. 女性取締役の登用について、貴社の考えを伺いたい

A7. 当社グループは特に男女の別なく、取締役として適任と判断した人物を候補者としている。当社においては、社外監査役としてアールフット依子氏を選任しているほか、関連会社においては複数の女性役員・管理職が活躍しており、今後も有能な人材を積極的に登用していきたいと考えている。

Q8. 3期連続の赤字となった要因について、糸井社外取締役の見解を伺いたい。

A8. 要因は様々だと思うが、一つには規制産業の波、つまり自分たちの仕事とは違う、誰かが決めることが事業に大きく影響することを肌身に感じた3年間だった。フィールズという会社は、「すべての人に最高の余暇を」を使命に掲げて、実現の手段としてパチンコ・パチスロ事業からスタートした会社である。私は、すべての人に余暇が必要になるのは、確かなことだと考えている。それが映画なのかカジノなのか、その都度工夫して考えるべきことではあるが、余暇が大事になることについて、フィールズの企業努力が実った時に、この会社が発展していくことになると思う。パチンコ・パチスロに限らず、人々が働き方改革などで家に帰れと17時に言われても行くところがない場合には、飲み屋に行ったり、サークルに入ったり、色々しているが、その部分は余暇時間にあたる。この、余暇産業と言う巨大な市場が発展していくに違いなく、そこに到達できるかどうかはこれからのフィールズの企業努力だと思っている。私は、そこにターゲットを合せて、少し離れた距離から伴走していくつもりでいる。